

1. はじめに

- ・ 全てに当てはまることであるが、技術を向上させるにはその分野のすばらしい技術を見て理解して自分のものにし、そこから更なる進化(改良・改善)させることが重要である。
例えば、ソフト技術者が設計技術を向上させるにはすばらしいソフトを一杯見てその設計思想をマスターすること
投資に於いて成功例は多くの本が出ており簡単に入手することが出来る。
投資家の成功者(累計で利益を上げている人は5%とも言われている。)成功例はこの5%の情報である。
- ・ それと同時に重要なことは多くの失敗例/失敗する投資(哲学、戦略)を勉強することである。全体の情報の95%を占める重要な情報を勉強すれば最強の投資家に成れる。
人は成功した話は他の人にするが失敗はなかなか話さない。(まれに反対の人がいる。成功話はせずに失敗話だけをする人で、これはけちな人に多い。妬まれることを嫌っている(仲間でも儲かった話はあまり面白くない、やはり人間は人の失敗・不幸を好むように出来ている。私の話ではない。一般論である。又人におごることがいやなのである。)
投資仲間でも他の人の投資累計損益額を知らない。従って他の人の儲かったと言う話はたまたま儲かった事なのか？その方法で確率高く儲かった話なのかは判断できない。どこまで採用(参考)してよいか分からない。
本屋で探しても失敗例はほとんど無い。そうです、失敗する投資戦略(投資哲学)を入手することは非常に困難なのです。
今回は恥を忍んで勇気ある発表を行います。このような投資をすれば儲からない。・・・非常に参考になる投資哲学です。現在の株上がり状態で回りのほとんどの人が2.5倍になったなどウハウハしている時に儲かっていないのです。貴重な投資家です。あいつは何を考えて投資をしているの？全然理解できない。馬鹿じゃない？生意気だ！と言われている柏在住の孤高の投資家です。

前置きが長くなりましたが、このような投資をしては儲からない！の投資哲学を披露します。

2. 投資哲学(投資戦略)

- ・ 投資戦略を立てるのに必要なのが情報である。
情報は集めるだけでは何にもならない。スマホを持てば最新の情報がどこでも、いつでも手に入る。スマホを持っただけで偉そうにしている勘違い投資家が多い。
情報は集めると同時に分析をしその意味を考えなければいけない。情報を分析し自分の身にして生きるものである。鉛筆をなめなめ手帳にまとめていく。この姿が本来の投資家である。
- ・ 投資方法には人それぞれ、千差万別。どれが正しいと言うことはない。投資家数だけ投資方法はある。自分に合った方法でなければ面白くないし続かない。又人の方法はストレスが大きくなる
- ・ 他の人の成功談はそのまま参考にはならない。自分の投資方法に近い人の成功談は参考になる。又自分と全然違う人の投資方法も”あ！そんな方法もあるのか、そんな考え方・見方もあるのか！”と参考にはなる。
- ・ 成功した人の話はその方法が儲かる確率が高いとも言えない。その方法が累計でどのような成績だったかが重要である。間違えた方法/でたために投資しても100人やれば1人は確率的に儲かることがある。そんな方法だったかもしれない。そのような話だったと判断でき、聞き流すことが出来なければいけない。
- ・ 誰それが”買い”と言っていたとすることで投資する方法は一番まずい方法である。成功しても失敗しても自分の身には身らない。(利益を得ると言うことはあるが投資能力の向上にはならない。)自分の考えで失敗してこそその能力が向上するのである。

1) テクニカル/フォンドメンタル

- ・ 過去の数字をいろいろ勉強しても過去のものである。将来の数字は自分で考えなければいけない。
過去の数字の分析で買い・売りの判断で儲かることはない。そんな方法があれば必ずコンピューターを使用して簡単に儲かる。実際にコンピューターを使用した投資は多くの人が行っている。過去のデータを分析し機械的に売買を行っても一時的には儲かることもあるが長くは続かない。何故ならそのような方法のコンピューター売買が行われると”この様な売買すれば儲かる”の論理に狂いが発生する。つまり、その方法では儲からなくなる。常時”儲かる方法”を更新しなければいけなくなる。大規模に投資を行っているグループ(資金、設備(IT機器)、高級なソフト開発者などを保持しているグループ)は続けられるかもしれない。
従い過去のデータ(チャート、PER,RSI,二番底、上抜けした・・・)は参考程度にしてそのような分析に時間を無駄にしない。しかし現在の経済情勢がどのような位置にいるかは把握していなければいけない。

2) 短期投資か中長期投資か

- ・ 短期で考えれば、株価が上に行くか？下に行くかはそれぞれ50%である。(その時点の公開されている情報から多くの人が妥当と考えている株価になっているはず。従い短期で売買するのは半丁のばくちである。従い、その時点で公開されている各種数値を勉強しても意味がないと考えている。大切なことはその企業の属する業界の将来はとなると考えるか？拡大するのか？縮小するのか？など。同様にその企業自身の将来はどうか？である
つまり、短期投資はしない。中長期投資に徹する。但し思惑以外で短期に目標値(倍)を達成した場合はこの限りではない。

3) 順張/逆張

- ・ 投資家の性格診断が必要である。ある程度性格で決まってくる。
一般に外国投資家は順張、日本の個人投資家は逆張が多いと言われている。現在の右上がりの市場では、個人投資家の多くが冴えない成果となっている。そこでいつもと違う順張を行い出した個人投資家が多くなっている、これは欲に目をくらませた行為で多くのリスクを抱えることになるだろう。と言われている。
- ・ 順張りについて
勝負師である。陽気で派手で自己主張が強い人に多いようだ。儲かった話はするが損した話をしたがる傾向の人が多。儲かると”儲かった金”だと言って派手に使ってしまう傾向がある。

- ・逆張りについて
控えめで気が小さくて優しい人に多いようだ。順張とは逆で儲かった話は絶対せずに損した話ばかりする傾向がある。ケチな人が多い。過去の株価に囚われている。去年はXX円だったのに今は〇〇円。現在高くなっている場合は今買うと損した気分になる。逆に現在下がっている場合は今買うと得した気分になる。基に戻らない場合も多いのだが…。当然私は逆張りである。
 - ・これはどちらが正しいとの話ではない。それぞれ良い点悪い点がある。
順張り: 資金の回転が良く、短期間で儲けることができる。欠点としては当然天井掴みとなるリスクが高い。常時集中していなければならずストレスが大きい。
逆張り: 順張りの逆のことになる。天井掴みの確立が低く、ストレスが小さい。欠点は資金を寝かせる期間が長く効率が悪い。
- 4) 売買の判断
- ・ 買い銘柄、買い判断(1)
現実の株価と自分の頭の中の株価が違う場合で自分の中の大きな流れに従う。
自分の感覚(自分の中の大きな流れ、株価)と実際の株価に大きな差がある時が買い時であり、それから銘柄を選ぶ。株価全体が実力より下がった時(XXXショックなど)がチャンスと誰もが思っているが買えない人が多い。投資は知識をベースして、最後は”度胸”と考えている。みんなが売っているような時に買いに出る勇気である。
1に買時、2に銘柄である。買い時を間違わなければ80%は成功。銘柄選びはその成果が2倍になるか? 50%し
 - ・ 買い銘柄、買い時(2)
投資家は気になる銘柄を幾つかをいつもチェックしていると思う。その株価が買いたい値段に近づいた時、かつ株価は絶対に戻すと自分では考えているときに買う。
 - ・ データで順風満杯の株は買わない。予想もすばらしいデータになっている。この様な株は予想通りに好業績を上げて当然であると見られている。株価に反映されている。逆に良くないニュースが出ると下げが大きい。…余り面白くない株である。
逆に逆風が吹いている株は、業績が悪くても株はあまり下がらない。ちょっと良いニュースが出ただけで大きく上げることが多い。…面白い株であり、このような株を買うの楽しい。
 - ・ 売り判断
目標値(基本は2倍以上)になったときに、最近の出来高(出来高は株価に先行することを活用する。出来高が細って来ても株価はまだ落ちていないときが売り時)、流れをチェックし、持ち株の半分を売却する。(従い買いは複数単位で購入する。1単位しかない場合の売却は欲との戦いが強くなり失敗する可能性が大きくなる。)残りは元に戻るか、3倍以上になってから売却する。
2割、3割アップは狙わない。あくまでも単位は”倍”であり、”割”ではない。我孫子のダンディー2.5倍氏のような2.5倍目標が良い。
 - ・ 「投資は忍耐だ！」と言われることがあります。これの解釈を「株価が下がって長期間塩漬状態を続け、株価が回復するまで忍耐(我慢)が必要である。」と知っている人がいます。これは忍耐ではなくただの負けである。(読みの間違いである。)又、「株価が下がっても売らなければ損害ではない。」と知っている人がいます。とんでもないです。幾ら待っても株価は戻らない場合が多いです。この様な考え方をする人は投資をする資格も能力もありません。
本当の解釈は、株価がどんどん上がって儲けが出ている状態でどこまで売らないで持ちこたえて儲けを最大化するか、このときに必要となる忍耐を言います。株は買いよりか売りが難しいと言われます。ここが売りの一番の難しさです。欲との戦いにもなります。2.3割の儲けで売るとは忍耐の一かけらも無い論外のことである。
 - ・ 損切りではないが、一番悪いことは雰囲気(値下がり恐怖)に負けて売ってしまうことである。例えば、リーマンショック時、東北大地震時のような時不安に負けて狼狽売りすることである。この様な時はしょうがないと考えてどうにでもなれ!との気持ちでほっておくことである。
- 5) 損切り
- ・ いろいろな方法が書かれていますが、実行はかなり難しいです。実際にいろいろな損切り方法を行いましたが良い方法が見つかりません。損切りしたらその時から株価は逆方向に反転、損切りしなければ逆に儲けられたのに…を何度も経験した。その結果: うまく損切りは出来ないものと達観する。思惑と違う方向に行ったらそのままほっておく。1/20になっても損切りしない。敗北を認める。そのような株は年末の税金対策で売却する。
この方法は、儲けるときにきちんと儲ける(単位は倍)ことが出来て初めて成り立つ。(2, 3割で利食う方法の人はこんな流暢なことをしてはいけない。)
- 6) 投資目標
- ・ 投資を始めた時(35年前)の目標は生涯累計利益”1本”であった。ブラックマンデーはなんとか乗り切ったが、リーマンショックで挫けてしまった。しかしまだ諦めてはいない。もし達成した時はみなさんに報告し、ラーメン位はごちそうをさせていただきます。ご期待しててください。
- 7) 最近のスタンス
- ・ 回りがウハウハ騒いでいるのをしり目に2年前から撤退に向かっている。ちょっと早すぎたと後悔をちょっとしている。リーマンショックが頭からず抜けずに弱気になってしまった。ちょっと失敗か?

- ・ 日本経済の将来

現在の状況(国債額、日銀の動き、日本の経常収支(貿易収支)など)から円は200円/ドルを超えると確信している。従い現在は”どの株を買おう”ではなく”どのように円資産から離れるか”を一番重要と考えている。超インフレ、超円安が起きるか起きないかを自分の頭で考えることです。有名な誰それが言った、有名雑誌に載っていたから・・・などは論外です。私はいろいろな状況(数値状況)から起きることを信じて疑いません。ではその時のために何をすることが問題です。資産の外貨へ移すことは保険と同じです。火災保険に例えると火災がなければ万々歳です、火災が無かったと言って保険料を損したとは思いません。保険料とは外貨資産に移した時の手数料など、また考えとは逆に円高になって為替損を受けることです。将来の国債の発行額、日本の経常収支はどうなるか？貿易収支はどうなるか？など大局的なことを感覚で(感覚と言っても基礎に世界経済、日本経済、エネルギー問題、・・・などが頭で理解できている必要があります)。

- ・ 現在の注目点は;

- ①日本国債の行方
- ②為替(円/ドル)
- ③エネルギー(水素社会への期待、シェールオイル、原油価格など)

- ・ 対策の一つとしてのFX

FXは即時に買い売りが出来るので良い。外貨預金としても有効である。(①実際の外貨預金は手数料が高いがFXはほぼ”0”である。②25倍までレバレッジをかけられるのでかけ時を間違わなければ投資効率が非常に良い。(当然危険も大きくなる。))